

2026 年 9 月 14 日

留学報告書

南山大学長 殿

所 属 外国語学部スペイン・ラテンアメリカ学科

職氏名 教授 ESCANDON, Arturo

留学先：スペイン王国（Department of Education Sciences, University of Oviedo）

期 間：2025 年 9 月 15 日～2026 年 9 月 14 日

目 的：アストゥリアス地方における外国語教育および言語教育について研究し、外国語を教えるスペイン人教員が用いる教授・学習方法ならびに地域のロマンス語であるアストゥリアス語の教育・学習について調査すること。あわせて、オビエド大学における学生関連業務、学生サービス部門および学術運営に関する実践を理解・観察し、関係者と意見交換を行うこと。

本留学では、スペインのオビエド大学教育科学部（Department of Education Sciences, University of Oviedo）に客員教授として滞在し、当初の留学計画に基づき、アストゥリアス地方における外国語教育および言語教育について研究を行った。特に、外国語教育における教授・学習方法と、同地方の地域言語であるアストゥリアス語の教育、学習および継承に焦点を当てた。また、オビエド大学の教育・研究活動、学生関連業務、学生サービスおよび学術運営について観察するとともに、教員・研究者との継続的な意見交換を行った。

滞在中、研究は当初の目的を基礎としながら、アストゥリアス語教育を支える制度的・カリキュラム的条件の分析へと発展した。とりわけ、アストゥリアス語が教育制度の中でどのように位置づけられ、その教育を通じてどのような知識が選択、配列、評価、伝達されているのかを明らかにするため、教育規制、カリキュラム設計、教育知識の配分および教育的伝達について研究した。

研究活動の中心の一つは、オビエド大学教育科学部の Roberto Avello Rodríguez 氏（初等教育学士課程の専攻コーディネーター）との共同研究であった。スペインの現行教育法

LOMLOE の下で策定された、幼児教育、初等教育、義務中等教育およびバカロレアにおけるアストゥリアス語関連のカリキュラム文書を収集・整理し、文書コーパスを構築した上で、質的コーディングおよび比較分析を行った。

理論的枠組みとしては、ヴィゴツキーに由来する社会文化的理論と Basil Bernstein の教育社会学を主として用いた。特に、教育知識の分類・枠づけ、再文脈化、知識の選択・配分、教育的伝達といった概念を適用することにより、アストゥリアス語の法的・制度的認知と、その言語を学校教育を通じて次世代へ体系的に伝達するための教育的条件とを区別して分析した。

この研究の主要な成果の一つとして、Avello 氏との共著研究 “Recognition Without Transmission: Curriculum and the Distribution of Disciplinary Knowledge in Asturian Language Education” をまとめた。本研究では、アストゥリアス語が社会的・制度的に認知されていることが、必ずしも学校教育を通じた体系的な言語知識の伝達を保証するものではないという問題を検討し、各教育段階において専門的・体系的知識がどのように配分されているかを比較分析した。また、この研究成果は、Academia de la Llingua Asturiana（アストゥリアス語アカデミー）から招待された第 44 回アストゥリアス文献学・文化国際大会で発表する予定であり、同大会の講演原稿は、同アカデミーの学術誌『Lletres Asturianas』の投稿規定に従って提出し、査読結果に基づき掲載が検討される予定である。

また、本留学では、人工知能を外国語・言語教育における教育的媒介の手段として活用する可能性についても研究を進めた。具体的には、アストゥリアス語の動詞形態論、とりわけ動詞活用の学習を支援する AI ベースのシステム「Asturcón」を用いた研究を Avello 氏と共同で行った。

この研究成果は、2026 年 7 月にオビエド大学で開催された CIICEL 2026 (Congreso Internacional de Investigación y Creatividad en Enseñanza de Lenguas) において、“Mediación sociocultural basada na IA y aprendizaxe de la conxugación verbal n’asturianu: el casu de «Asturcón»” の題目で発表した。この研究では、AI との対話を単なる情報提供ではなく、社会文化的理論に基づく教育的媒介として捉え、学習者がアストゥリアス語の動詞体系を理解し、自律的に運用する能力をどのように発達させ得るかを検討した。

さらに、研究対象であるアストゥリアス語について、研究者としてだけでなく学習者と

しての理解も深めるため、滞在期間中に体系的な言語学習に取り組んだ。その結果、Academia de la Llingua Asturiana（アストゥリアス語アカデミー）が実施する公式のアストゥリアス語能力試験において、2025 年 12 月 19 日に基礎・初級レベル（nivel básico o elemental）、さらに 2026 年 5 月 29 日に中級レベル（nivel mediu）の認定を取得した。これらの学習経験は、アストゥリアス語の文法体系とその教育実践を学習者の視点から理解する上でも、研究上重要な経験となった。

また、本留学を通じて、アストゥリアス語の研究・教育に携わる研究者および関係機関との学術的連携を深めることができた。その直接的な成果として、2026 年 5 月、Academia de la Llingua Asturiana より、本留学期間中に実施した研究成果を発表するため、2026 年 11 月 3 日から 5 日にオビエドで開催される第 44 回アストゥリアス文献学・文化国際大会（44 Congreso Internacional de Filoloxía y Cultura Asturianas）に招待講演者として参加するよう正式な招聘を受けた。同大会は、同アカデミーが主催する最も重要な国際学術大会であり、アストゥリアス語、社会言語学、文学および文化に関する研究成果を発表・討議する中心的な場である。この招聘は、本留学中に得られた研究成果に対する学術的評価の一つであると同時に、その成果を専門研究者の前で提示し、検討・議論する重要な機会となるものである。

本留学で得られた成果は、個人の研究活動にとどまらず、南山大学の教育・研究にも直接還元できるものである。第一に、アストゥリアスにおける外国語教育および少数言語教育の実態、カリキュラム設計、教育的伝達に関する知見は、本学におけるスペイン語教育、外国語教育および教員養成の改善に活用することができる。加えて、アストゥリアス語のような地域言語・少数言語の社会言語学的状況、言語政策、教育制度、言語継承の問題について得られた知見は、学部および大学院におけるスペイン語圏研究、ロマンス諸語研究、社会言語学、言語教育および言語政策に関する授業内容を充実させる上でも有用である。特に、スペイン語をより広いロマンス諸語の歴史的・社会的文脈の中に位置づけ、国家語と地域言語・少数言語との関係を比較的に考察することは、学生がイベリア半島およびヨーロッパの言語的多様性をより深く理解するための教育的資源となる。第二に、人工知能を社会文化的理論に基づく教育的媒介として活用する研究は、AI を外国語学習に効果的かつ教育学的に導入するための実践的・理論的基盤を提供する。さらに、オビエド大学およびアストゥリアス語アカデミーをはじめとする現地の研究者・教育機関との関係を構築・強化できたことは、

南山大学の国際的な研究ネットワークを拡充し、今後の共同研究、学術交流および研究成果の国際的発信につながることを期待される。この意味で、本留学は、本学の外国語教育研究の発展、学部・大学院教育の充実、および大学の国際化に具体的な成果をもたらすものであった。

以上の活動を通じて、当初の留学目的であったアストゥリアス地方における外国語・言語教育の実態把握を達成するとともに、その研究を、少数言語教育をめぐる制度、カリキュラム、教育的伝達、学習者発達および AI による教育的媒介の分析へと発展させることができた。また、オビエド大学における教育・研究活動を直接観察し、現地の教員・研究者との継続的な学術交流を行うことにより、南山大学における外国語教育、カリキュラム研究および AI を活用した教育研究に還元可能な知見を得ることができた。

今後は、本留学中に構築した資料、分析方法および共同研究の成果を論文等として公刊するとともに、オビエド大学およびアストゥリアスの研究・教育機関との研究協力を継続し、外国語・第二言語教育および少数言語教育におけるカリキュラム、教育的媒介、学習者発達に関する研究へとさらに発展させていきたい。